

【古典文法 接続助詞「ば」識別①】

問 次の文中にある傍線部の助詞の意味を答えなさい。

- | | | |
|------|------|-----|
| (11) | (6) | (1) |
| (12) | (7) | (2) |
| (13) | (8) | (3) |
| (14) | (9) | (4) |
| (15) | (10) | (5) |
- ① その先祖を尋ねれば、桓武天皇第五の皇子、一品式部卿葛原親王（平家物語）
- ② とりたてて、はかばかしき後ろ見しなれば、事ある時は、なほよりどころなく心細げなり。（源氏物語）
- ③ あなづりやすき人ならば、のちにとてもやりつべけれど、さすがに心はづかしき人、（枕草子）
- ④ 世々を経て尽させぬものなれど、これをまことかと尋ねれば、昔ありし家はまれなり。（方丈記）
- ⑤ 用ありて行きたりとも、その事果てなば、とく帰るべし。（徒然草）
- ⑥ 民間の愁ふるところを知らざつしかば、久しからずして、亡じにし者どもなり。（方丈記）
- ⑦ 羽なれば、空をも飛ぶべからず。龍ならばや、雲にも乗らむ。（方丈記）
- ⑧ この道を立てて世にあらむには、仏だによく書き奉らば、百千の家も出て来なむ。（宇治拾遺物語）
- ⑨ 家に至りて、門に入るに、月明ければ、いとよくありさま見ゆ。（土佐日記）
- ⑩ 有明の月のいみじく明かりければ、「頗証にこそありけれ。いかがすべからむ。」と（大鏡）
- ⑪ 雨雲は落ちかかるばかりに暗けれど、久しく住み慣れし里なれば迷ふべうもあらじと、（雨月物語）
- ⑫ 暮らすほどに、四月十余日にもなりぬれば、木の下暗がりもてゆく。（和泉式部日記）
- ⑬ 危き事やあると見て、心にかかる事あらば、その馬を馳すべからず。（徒然草）
- ⑭ 芥川といふ川を率て行きければ、草の上に置きたりける露を、（伊勢物語）
- ⑮ ほどなく魂の憂き身を捨てて、君があたり迷ひ出でなば、結びとめ給へかし。（夢の通ひ路物語）

【古典文法 接続助詞「ば」識別①】解答

問 次の文中にある傍線部の助詞の意味を答えなさい。

- | |
|---|
| ① その先祖を尋ねれば、桓武天皇第五の皇子、一品式部卿葛原親王（平家物語） |
| ② とりたてて、はかばかしき後ろ見しなれば、事ある時は、なほよりどころなく心細げなり。（源氏物語） |
| ③ あなづりやすき人ならば、のちにとてもやりつべけれど、さすがに心はづかしき人、（枕草子） |
| ④ 世々を経て尽させぬものなれど、これをまことかと尋ねれば、昔ありし家はまれなり。（方丈記） |
| ⑤ 用ありて行きたりとも、その事果てなば、とく帰るべし。（徒然草） |
| ⑥ 民間の愁ふるところを知らざつしかば、久しからずして、亡じにし者どもなり。（平家物語） |
| ⑦ 羽なれば、空をも飛ぶべからず。龍ならばや、雲にも乗らむ。（方丈記） |
| ⑧ この道を立てて世にあらむには、仏だによく書き奉らば、百千の家も出て来なむ。（宇治拾遺物語） |
| ⑨ 家に至りて、門に入るに、月明ければ、いとよくありさま見ゆ。（土佐日記） |
| ⑩ 有明の月のいみじく明かりければ、「頗証にこそありけれ。いかがすべからむ。」と（大鏡） |
| ⑪ 雨雲は落ちかかるばかりに暗けれど、久しく住み慣れし里なれば迷ふべうもあらじと、（雨月物語） |
| ⑫ 暮らすほどに、四月十余日にもなりぬれば、木の下暗がりもてゆく。（和泉式部日記） |
| ⑬ 危き事やあると見て、心にかかる事あらば、その馬を馳すべからず。（徒然草） |
| ⑭ 芥川といふ川を率て行きければ、草の上に置きたりける露を、（伊勢物語） |
| ⑮ ほどなく魂の憂き身を捨てて、君があたり迷ひ出でなば、結びとめ給へかし。（夢の通ひ路物語） |
| ① 順接確定条件 |
| ② 順接確定条件 |
| ③ 順接仮定条件 |
| ④ 順接確定条件 |
| ⑤ 順接仮定条件 |
| ⑥ 順接確定条件 |
| ⑦ 順接確定条件 |
| ⑧ 順接仮定条件 |
| ⑨ 順接確定条件 |
| ⑩ 順接確定条件 |
| ⑪ 順接確定条件 |
| ⑫ 順接確定条件 |
| ⑬ 順接仮定条件 |
| ⑭ 順接確定条件 |
| ⑮ 順接仮定条件 |